

## 洛和会京都厚生学校 学校評価 令和3年度学校関係者評価結果

令和3年度の本校の学校運営についての自己評価結果を踏まえ、以下のとおり学校関係者評価を行ったので評価結果を取りまとめます。

最重要課題とされたコロナ禍における安心安全な学校運営については、リモート授業等の導入をはじめとした感染予防対策の徹底が図られ、良好な結果につながったと思われる。

以下、各項目ごとに自己評価結果を点検していく。

### 1 基礎データ

基礎データとして示された生徒数、国家試験合格者数、就職率については、今日、少子化、大学での看護学科の創設等の影響で、看護学校では入学者の減少や募集停止、廃校なども見られるところであるが、洛和会京都厚生学校においては看護学科で定員を若干上回り、助産学科でも定員が確保されている。

その背景には国家試験の合格者数、卒業生の就職率の高さも影響しているものと思われる、これらを引き継ぎ「温かく、存在感のある看護師・助産師の育成」に努められたい。

### 2 評価項目

#### (1) 教育理念・教育目的について

教育理念・教育目的については、様々な媒体や機会を有効に活用し、教職員はもとより生徒への浸透に努められてきたと認められる。

今後においては、さらに個々の認識度合いについてもアンケート等で把握されることも効果的と思われる、その手法を検討されたい。

また、教育理念、教育目的については、「不易と流行」を見据え、適当な時期に見直すことも有効である。教育理念及び教育目的は学校教育の基礎であることを改めて認識し、必要な変革を進めていただきたい。

#### (2) 学校運営について

令和3年度においては、委員会活動やプロジェクト活動を通じて、新たな課題にも対応しうるよう運営体制を整えられており、今後においても時宜に応じた臨機応変な体制づくりを行っていただきたい。なお、現在、各種媒体を使った学校のPRが分散して進められているが、その統括を行う委員会の設置も効果的ではないかと考えられ、委員会間の情報共有の促進について検討を深めていただきたい。

#### (3) 教育課程・教育活動について

定められた学習過程に沿って授業を展開するうえで、今回のコロナ禍は極めて困難な事態を引き起こしたと思われる。今後も遠隔授業の実施やリモートでの実習などが

積極的に展開されるよう、臨地実習施設等との連携強化を深め、さらなる環境改善に努めていただきたい。

#### **(4) 学習の到達度について**

学習の到達度としては、国家試験合格率に収斂しがちであるが、看護学科においては3年間の修学期間があり各年の到達度を把握しておくことも肝要である。見逃しのない観察をさらに徹底していただき留年率の低下を図っていただきたい。

また、看護師・助産師としての学びに終わりはなく、社会の変化、価値観の多様化にも対応しうる豊かな人間性と学習意欲をこの修学時に身に付けさせていただきたい。

#### **(5) 奨学金など生徒への支援状況について**

新型コロナウイルスの影響もあり、世帯収入や学生のアルバイト収入が激減している。こうした状況のもと、真に支援の必要な低所得世帯の学生等の就学に係る経済的負担の軽減を図ることは急速な少子化の進展への対処に寄与するものでもあるため、洛和会奨学金のみならず国等の各種奨学金についても積極的な活用を推進していただきたい。

#### **(6) 教育資材・教育環境の整備について**

ICTの進展により、さらなる技術革新が見込まれ、今後においては医療現場における情報化、高度化への対応が不可欠である。看護医療界全体の動向を踏まえるとともに、よりきめ細かく生徒の声に耳を傾けて教育環境の整備・充実に努めていただきたい。

#### **(7) 入学志願者増の取組について**

少子化が進行する中、現役高校生のみならず、すでに高校を卒業し、その後進学や就職をされた方々、家庭に入られた方々にもリカレントや再進学先として選んでもらえるよう教育内容のさらなる充実、広報活動の積極的な展開を行い、認知度アップを図らなくてはいかかがか。そのための施策を点検し充実されたい。

#### **(8) 特別活動について**

コロナ禍においては特別活動自体が自粛される結果となり、評点も低かったことはやむを得ない結果でもあったが、こうした活動は生徒が一般の方々とコミュニケーションをとる貴重な実践の場でもあることから、生徒自身が主体的に参画し、活動されることが望ましく、創意工夫を凝らした様々な機会を設けていただきたい。

#### **(9) 地域・社会への貢献、他機関との連携状況について**

地域・社会への貢献、他機関との連携については今後の課題かと思われる。学校の持つ人的・物的資源を地域の諸機関に提供するなどの方向性を検討していくことが望まれる。

とりわけ行政や生涯学習施設等とも積極的な連携を図り、さらなる地域貢献、他機関連携を進めていただきたい。

### 3 レーダーチャート

学校関係者評価(5段階)

項目	評点
1 教育理念・教育目的	4
2 学校運営	4
3 教育課程・教育活動	5
4 学習到達度	4.75
5 生徒支援	5
6 教育資材・環境	3.5
7 募集・応募	3.25
8 特別活動	2.5
9 地域貢献・機関連携	2.5



以上、「洛和会京都厚生学校 学校評価実施要綱」に基づき、令和4年6月24日に校内評価委員会がまとめた自己評価結果を学校関係者により点検し、評価を行った。

自己評価に比し、教育理念・教育目的は教職員及び生徒の個々の評価も加えるべきと考えられ、評点を下げた。同様に、教育資材・教育環境については、生徒のニーズをさらに深められるよう検討を加えていただきたく評点を下げた。特別活動についてはコロナ禍においても感染防止を徹底しキャッピングセレモニーなどいくつかの取組みが挙行されていたことから加点した。以上の結果、平均値は3.8となった。

本評価結果についてはホームページ若しくは刊行物への記載、施設での掲示等により公表し、令和4年度の学校改善に役立てていただきたい。

(参考)

学校関係者評価委員会

令和4年6月28日

実習先関係者2名、学校法人洛和学園評議員1名、同窓会関係者1名 計4名